

2008年12月9日

## 夜に香るランの香りを再現

「つくば蘭展 2008」(国立科学博物館筑波実験植物園)にて展示中

株式会社カネボウ化粧品



カネボウ化粧品・製品開発研究所は、国立科学博物館・筑波実験植物園・遊川知久博士の指導のもと、従来ほとんど研究がなされていなかった原種「フウラン」(写真左)の花の香りを研究し、その優れた香気を解明、再現することに成功しています。さらに、他の希少価値の高い夜に香るランの香り数種類も調べました。

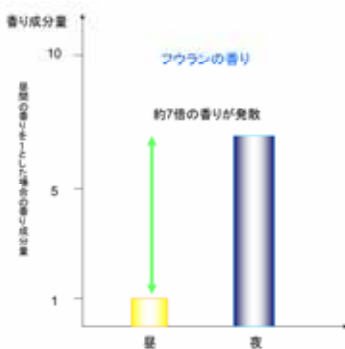
カネボウ化粧品では、再現に成功したフウランの夜の香りを、他のランの香りとともに、現在公開中の「つくば蘭展 2008」(筑波実験植物園・12/7~12/14開催)にて展示しています。来場者は、実際のランの鑑賞とともにこれらのランの香りを試すことができます。

なお、高級エイジングケアブランド「DEW スペリア」EX(2008年11月16日発売)の香りは、このフウランの夜の香りを基調としています。

### 日本原産のラン「フウラン」(Neofinetia falcata)

フウラン(Neofinetia falcata)は中国、韓国、日本に自生するランです。自生地は関東以西で、最近では激減している希少ランです。樹上の高いところに着生し、夏によい香りの小ぶりな純白の花を咲かせます。昔から鑑賞の対象とされ、特に江戸時代に盛んに栽培されました。中でも、姿、花、香りがいいものが好まれ、変わり種は富貴蘭(フウキラン)として愛好家に珍重されています。

カネボウ化粧品では、国立科学博物館・筑波実験植物園・遊川知久博士の指導のもと、フウランの香りを詳細に研究しました。エコロジカル・アロマ法等を駆使し、自然の状態でするフウラン



の花の香りを採取、解析したところ、昼間にはほとんど香り成分が生成されないものの、夜中には各種の香り成分が多量に検出され、香り高くなっていることがわかりました。香り成分としては、花様の香りのリナロール、フルーティさを持つ花の香りのメチルベンゾエート、さわやかな草様のグリーンな香りシスー3-チグレートなどが主成分となります。実際、咲き始めたフウランの花は、昼間はほとんど香りがなく、夕方から次第に香りを放ち始めます。夜中に香りはピークを迎え、甘く、芳しい香りを出します。

また、受粉させると、急速に香りが消失していることもわかりました。このことから、特定の夜行虫を引き寄せていると考えられます。

カネボウ化粧品では、この研究により得られた詳細な香り情報をもとに、フウランの夜の香りを忠実に再現することに成功しています。また、この香りを今回の「つくば蘭展 2008」にて展示しています。

エコロジカル・アロマ法：植物を傷をつけることなく、自然に咲いた状態で花の香りを分析する方法。自然な花の香りを調べることが可能となる。

## その他の夜に香るラン

ランには、フウランと同様、昼間はほとんど香りがせず、夕方から次第に香りが出始め、夜中に頂点に達するものがあります。アフリカやマダガスカル島に自生するアングレカム属( Angraecum )がその典型です。茎が短く、葉が密生するなど、形態はフウランに似ています。今回、採集し、分析したランの香りは下記のとおりです。

ランの名前	花の特徴	香りの特徴
アングレカム・エブルネウム (Angraecum eburneum)	熱帯アフリカとインド洋の島々に約 200 種自生するアングレカム属の中でも、特に大型のラン。淡緑色の花弁と白いハート型の唇弁を持つ花をつける。	昼間や天気が悪いとほとんど香らず。夕方からジャスミンの花の香りとして知られるベンジルアセテート、葉様のメチルサリシレートなどを主成分とする芳しい花様の香りを出し始め、夜中にはバラ様の香り(フェニルエチルアルコール)も合わせり、最高潮に達し、馥郁とした甘い香りが花のまわりに漂う。
アングレカム・セスキペダレ (Angraecum sesquipedale Thours)	マダガスカル島の低地の樹木に着生する原種ランで、ダーウィンが進化論で予言したランとして有名。	夜になると香りが出始め、メチルベンゾエートやほのかにアンズ様のベンジルアルコールなどを主成分とする香りが強く漂う。
ブラサボラ・ノドサ (Brassavola nodosa)	中央アメリカの低地の熱帯雨林に自生するラン。白いハート形の唇弁と淡い白緑色の花弁、がく片の花をつける。 Lady-of-the-night orchid (夜の貴婦人)の英名を持つ。	夜に香りが強くなる。ミカンの花の香り成分のひとつであるほのかな花様の香りにリンゴのような青い香りがするネロリドールなどが香りの主成分。さらにイランイランに含まれる重厚な花の香りイソオイゲノールなどが合わせり、特有な香りを放つ。
ブラサボラ・スプリフォリア (Brassavola subulifolia)	中央アメリカの低地に自生するラン。控え目な白い小さなハート型の花をつける。	昼は僅かに香る程度。夕方から香りを強く放ち始め、真夜中にピークを迎える。清涼感のある花様の香りに加え、少し甘く、丁子のようなスパイシーな香りをもつ。
エピデンドラム・ノクチュルナム (Epidendrum nocturnum)	中央、南アメリカに自生するラン。白色の唇弁、長い細身の淡白黄色の花弁、がく片の花をつける。夜に香ること知られ、Night-scented Orchid (夜香蘭)とも呼ばれる。	昼間には香らず。夕方5時頃から香りを出し始め、深夜に香りは最高潮に達する。ユーカリの香りとして知られるシネオールと、パニラアイスクリームの香りのヴァニリン、セスキテルペン化合物を含む、清涼感のある甘い花の香り。

現在公開中の「つくば蘭展 2008」では、フウランの夜の香りをはじめ、その他、これら夜に香るランから見つかった特徴のある様々な香り成分も試香できます。